



ウクライナの文化等

ヴィシヴァンカ

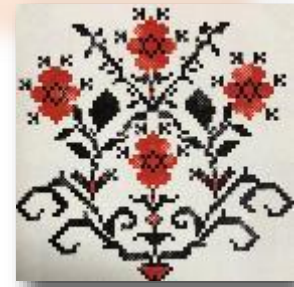
ウクライナの伝統的な刺繍「ヴィシヴァンカ」は100種類を超える種類または技法から作られています。刺繍のパターンは、主に幾何学模様、花柄、動物の3種類で地域によって違います。同じパターンを何度も繰り返し使うのも特徴の1つです。



◆刺繍の形や色にはそれぞれ意味があります。
たとえば…

- 花：一番大切なのは、命の木と呼ばれるものでお守りの意味と、母性愛の象徴。
- 動物：一番大切なのは鳥。人の魂の象徴で、結婚式には必ず使われる。
- 色：赤は人生と愛、黒はお守りと先祖への敬意、黄色は月と星と収穫、青は空と力と健康、緑色は復活と世界、茶色は生殖能力を表す。

毎年5月の第3木曜日は「ヴィシヴァンカの日」
仕事や学校、イベント、集まりなどで、美しい刺繍を施したヴィシヴァンカを身にまとい、愛国心、宗教、尊敬を大切に、お祝いをします。



△ 花「命の木」



△ 動物「鳥」



コサックダンス



コサックダンスの始まりは、「軍人が身体を鍛えるためのトレーニング」。古代では武術の踊りとみなされていました。現在では武術文化の伝統として残されていて、民族舞踊の1つです。

「コサック」とは、武力を生活の基盤としていた自由な戦士のことを指します。彼らは軍事組織を作り、軍事力や経済力の面から、社会的影響力を持つ存在でした。日本ではその昔、侍がいましたが、コサックはウクライナの侍のような存在と言えます。



自由の戦士「コサック」→

「ホッフ！」の様子



「ホッフ！」という掛け声をかけながら、高いジャンプや速いテンポで技を繰り広げながら踊るので、「ホパックダンス」とも呼ばれています。元々は男性が演じていましたが、現代では女性にも踊られており、武道としてホパック競技も生まれ、それを専門に教える教室もあるようです。



ウクライナ民話「てぶくろ」

おじいさんが森の中に手袋を片方落としたことから、物語が始まります。

さまざまな動物(ねずみやうさぎ、キツネにオオカミ、いのしし、そして最後にクマ)たちが、その手袋につぎつぎと協力し合いながら住み込んでいきます。



書名：てぶくろ
著者名：エウゲーニー・M・ラチョフ 絵
/ うちだ りさこ 訳
出版社名：福音館書店

この絵本は、福音館書店から1965年に発行されたウクライナの民話です。

